日本余暇学会ニュース

発行所=日本余暇学会　発行人=薗田碩哉　発行日=平成二十三年四月十五日

二〇一一年度の学会運営方針

震災後の社会づくりに余暇の果たす役割を追求

この度の未曽有の大災害、地震・津波に原発事故の三打撃が日本社会に与えた爪痕は深く、また広い。地震と津波は天災だが、地球が身じろぎ、人間すれば、どの生活端微塵に木っ端微塵に吹き飛ばされ、ここまで来たとしても、人間は改めて、自然と共生せざるを得ない。

称する人々が居丈高に押し付けてきた安全神話が脆くも崩れた。三・一一を経たわれわれは、復旧どころか復興をもって、新たな価値観と生活スタイルを創り直すことを求められている。

「余暇」を欠いてきたこれまでの人間と社会の根底から問い直し、人間らしい生活を目指さなくてはならない。

〈薗田〉

「余暇学研究第14号」発刊される。

日本余暇学会の研究誌「余暇学研究」の第14号が三月に刊行された。本学会が、「日本学術会議協力学術研究団体」として承認されてから三号めとなる。本号には、論文四編、「特集　余暇研究の可能性」、資料、さらに余暇学会大会の基調講演、シンポジウム報告、及び学会活動報告、その他が掲載され、総ページ数83ページとなった。歌川光一正前期婦人会員の「明治後期・大細は「余暇学研究第14号」83頁を参照されたい。

なお、次号より浮田千枝子編集委員が編集委員長の就任予定である。

エントリーは七月末、原稿提出は九月末を締め切りとしている。余暇学研究投稿規定の詳

おしゃれ意識と運動行動」の四論文を掲載した。

中藤副会長から昨年、長野県佐久市で開かれた「第14回日本余暇学会研究大会報告〈余暇と地域文化〉」が報告された。

特集は「余暇研究の可能性　アジアへの発信、アジアからの発信」は薗田会長から「世界レジャー会議in春川」、宮入恭平会員からアジア各国との共同研究への提言、韓国の余暇研究者チェ・ソクホ、チョン・ヘジュン両氏からの投稿を掲載した。

さらに「資料」として小澤考人会員による「余暇・レジャー研究」に関する洋書文献リストを掲載した。文献リストは五つのパートに分類して構成されている。

第15号の投稿の

第74号

日本余暇学会事務局
〒191-0016
日野市神明1-13-1
実践女子短期大学
生活福祉学科薗田研究室内
TelFAX 042-584-5428
e-mail
info@yokagakkai.jp
Home Page
http://www.yokagakkai.jp/
編集人:山田貴史

お詫びと訂正

七十三号　第三面「韓国マリン・レジャー学会」の記事の中で誤りがありました。

二パラグラフ三行目
「立ち上げることを申し合わせました」→「立ち上げました」

二パラグラフ六行目
「が決まりました」→「を申し合わせました」

*日韓共同シンポジウムの開催日程については、現在調整中です。

以上の通り訂正し、関係者の皆様、執筆者の宮入様にお詫びします。

ゲームセンターは、余暇産業のひとつである。そこに集まる若者たちは、余暇産業が提供する「遊び」を「消費」する受動的な存在とみなされてきた。メディアの及ぼす影響を実験や調査によって実証しようとする効果研究の領域では、ラジオやテレビに続いてビデオゲームが研究対象として関心を集めてきた。その底流には、シャノン&ウィーバーが唱えた通信工学モデル的なコミュニケーションの流れがある。つまり、余暇産業がコンテンツの「送り手」、ゲームのプレイヤーが情報の「受け手」として捉えられ、送り手が流す情報に受け手は何らかの影響を受けていく。このような図式を基盤にビデオゲーム悪影響論が強力な言説として浮上しはじめたのは、1978年に登場し社会現象となった『スペース・インベーダー』以降のことだった。

同時期、ゲームセンターは不良のたまり場とされ、1985年に風営適正化法の対象となった。アミューズメント業界は、このマイナスイメージを払拭しようと画策してきたが、常にビデオゲーム悪影響論の影が付きまとう。

しかし、果たしてビデオゲームで遊ぶ若者たちは、たんに余暇産業の送り出す情報を受けとるだけの存在なのだろうか。効果研究は文化・遊びの特性を捨象してしまうがために、客観的な研究においても根源的なバイアスが内在する。たとえば、社会にとって有益とされる価値観を前提にして研究が進められるために、その価値観にそぐわないものは簡単に切って捨てる。

ところが、実際にゲームセンターに集まる若者たちの文化や遊び、コミュニケーションに着目してみると、異なる様相が浮かび上がってくる。

本書は、フィールド・ワークによって若者の つくり出す文化を明らかにし、現代社会について分析を加えたものである。

社会において学校では成績、職場では成果が求められる一方で、横並びをよしとする価値観のなか、若者たちがとる目立つ振る舞いは、「いじめ」の対象となる。そのような社会の中で肩をすくめる若者たち。彼（女）らが抱える問題に目を背け、ビデオゲームに問題の所在を転化していく社会構造の背後には何があるのか。果たして、ゲームセンターとはいかなる空間なのか。

本書は、たんなるビデオゲームやゲームセンターの研究ではなく、そのような「場」から見えてくる、人間や社会、コミュニケーションについて考察した文化研究である。

加藤裕康
『ゲームセンター文化論
メディア社会の
コミュニケーション』
新泉社

新入会員紹介

「レジャー・スタディーズ2011」研究会緊急開催

3月１１日の「東日本大震災」を受け、様々なイベントが自粛ムードの中、中止されました。

今、被災地では、わずかな休息すら惜しんで、復旧、復興、そしてさらなる災害の発生に身を挺して働いていらっしゃる方々数いることは事実です。このような状況下、余暇は、まったく無力で不謹慎なものなのでしょうか。

今、私たちは何を考え、何を実践し、余暇と社会のあり方をどのように考えていくべきでしょうか。

3.11後の余暇について様々な意見を会員間で意見を交換しませんか。

4月28日、研究会の開催を急遽、決定しました。しかし現時点では、場所、時間などは未定です。ご興味ある方は、ホームページにご注目ください。

二〇一〇年 余暇ニュースダイジェスト

【一月】
20日　09年度外食売上高六年ぶり減少、前年比一・五％マイナス
27日　映画「アバター」世界興行収入でタイタニック超える約一六七〇億円
28日学校外活動費は控え気味「高校生の塾・稽古費」で減少

【二月】
4日　大相撲・朝青龍引退
12日　バンクーバー冬季五輪開幕テーマは「環境五輪」
　エイチアイエスがハウステンボス支援を決定
20日　ベルリン映画祭寺島しのぶ最優秀女優賞

【三月】
7日　アメリカ八二回アカデミー賞「ハートロッカー」六冠
12日　バンクーバーパラリンピック開幕
16日　サービス業顧客満足度調査結果発表
一位　東京ディズニーランド　二位　ECカレント　三位あきんどスシロー

【サービス産業生産性協議会】
24日　講談社、小学館、中央公論新社など、日本電子書籍出版社協会設立

【四月】
3日　選抜高校野球　興南高校優勝
23日　「日本女子プロ野球リーグ開幕」
27日　内閣府幸福度意識調査　幸福度は六・五点

【十点満点】
28日　子ども手当使い途調査「子どものための貯蓄43％【内閣府】

【五月】
13日　日本体育協会新会長にトヨタ会長張氏
28日i-Pad発売、銀座に行列一二〇〇人
4日　子どもの人口29年連続で減少、全体の13％

【六月】
11日　第19回サッカーW杯　南アヨハネスブルグで開幕
22日　太地町のイルカ漁を取り上げた映画「ザ・コープ」公開決定
28日　「高速道路無料化」社会実験開始

【七月】
8日　電子書籍にドコモ参入の意向
12日　サッカーW杯スペインが優勝
17日　成田スカイアクセス開業

【八月】
22日　全国高校野球
沖縄・興南春夏連覇
23日　中国杭州で日中韓第五回観光担当相会議
　参加国相互訪問者を五年で二六〇〇万人に
25日　マイカー普及台数四年連続減少【三月末時点】
30日　サッカー日本代表ザッケローニ監督誕生

【九月】
18日　白鳳54連勝で千代の富士抜く
20日　B1（B級グルメ）グランプリ厚木に43万人「甲府モツ煮」が征す
22日　マレーシアLCCが羽田～クアラルンプールに就航発表、片道五千円あまり【12月より】

【十月】
6日　世界遺産暫定リスト　佐渡鉱山、仁徳天皇陵追加
21日　平塚競輪チャリロト払戻金「九億五九八万七千四百円」国内くじ史上最高

【十一月】
7日　千葉ロッテリーグ三位から日本シリーズ優勝
15日　白鳳連勝記録63でストップ

【十二月】
2日　二〇二二サッカーW杯カタールで開催決定
4日　東北新幹線全線開業　東京から新青森三時間二〇分
15日水嶋ヒロ「KAGEROU」発売、発行部数43万部

会費納入のお願い
平成20年度～平成23年度の会費未納の方に請求書を同封しています。
口座番号:00140-9-729065
加入者名:日本余暇学会
会費:一般会員10,000円
学生会員5,000円
＊余暇に関心のある方に、入会をお勧めください。

第60回日本余暇学会
日：3月29日（金火曜日）　会場：四ツ谷
参加者:薗田会長、辰巳、高橋、宮入、山田各理事
議題
①第15回　研究学会大会について（提案：薗田会長）
１、日時：候補日　10月8,9日または、10月15,16日
会場：実践女子短期大学（日野市神明町）
テーマ：「余暇と新しい公共」（仮テーマ）
大会委員長：薗田会長　大会委員：中藤理事、辰巳
２、具体的内容検討へのスケジュール
②「レジャー・スタディーズ2011」研究会の運営について
③今後の学会組織のあり方について（提案：事務局辰巳）
１、ツーリズム学会の申し入れの説明
２、「日本余暇学会」「ツーリズム学会」の連携あるいは統合等の可能性の検討
④学会国際交流　韓国との共同シンポジウムについて（担当：宮入理事）
１、共同シンポジウムの具体的内容の説明
２、参加者について
⑤本年度決算報告（経過報告）来年度の予算について（事務局）
⑥日本余暇学会2011-2012　理事の選任（提案：薗田会長）
⑦ その他
1.学会ホームページについて
2.観光学会との合同大会について
3.編集委員の交代について

「ツーリズム学会」ほか他学会との連携あるいは統合等の可能性の検討

日本余暇学会では、2008年度には「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに「ライフビジョン学会」と研究会を開催、また2009年度からは観光系諸学会との合同大会に参加、2010年度には「ツーリズム学会」と共同で研究大会を開催するなど、他学会との交流を深めてきた。このたび、「ツーリズム学会（学術団体登録なし）」からの申し出により、両学会の連携あるいは統合の可能性について具体的に検討することとなり、本年度の取り組むべき課題の一つとして、その検討プロセスが理事会で承認された。

「ツーリズム学会」は、日本観光学会、日本観光研究学会、日本国際観光学会、総合観光学会など観光系学会が林立するなかで、規模の点などを考慮すると、事務局維持や独自色を出だすことが難しくなったこと、「ビジネスとしての観光」「地域社会の課題としての観光」だけでなく「文化現象としての観光」にも今後研究の幅を広げていきたいなどの点から、我が学会へ連携あるいは統合についてアプローチしてきた。

ツーリズム学会の連携あるいは統合等の可能性の検討に関して、現在、「双方の学会情報の交換」「検討開始のための各学会理事会への提案と承認」まで進んでいる。今後は以下のプロセスで進めていくことになる。

１、「連携あるいは統合等」の可能性に向けての積極的対話
・研究会の交流（2010年度より実施）
　2011年度大会の合同開催の可能性を検討中
２、双方の学会内での会員向けアンケート
・研究交流の評価
・「連携あるいは統合等」のメリット・デメリットの検討
・今後の関係（連携強化/統合・合併/上部組織とブランチ/ /独自路線など）を検討
３、理事会、総会での「連携あるいは統合等」への協議の承認
４、「連携あるいは統合等」に関する合意事項の確認、今後の具体的検討
〇これら一連の検討には期限を設ける（2011年度内を目安）

我が学会としては、ツーリズム学会に限らず、近い研究分野の他学会との連携あるいは統合等の可能性についても、同時に検討していきたいと考えている。正式なアンケート調査は後日行うが、学会の今後の在り方も含めて、皆さんから忌憚なきご意見をお寄せ頂きたい。

「ツーリズム学会」とは（学会情報交換回答より）
他の観光系諸学会と比較して、ツーリズム学会はもともと他学会や諸外国の学会との交流に積極的になってゆくという方向性を志向している。また、他学問領域との交流に対する志向も強く、学際性の強い観光学の展開に軸足を置いていると言えよう。個別研究の方向性としては、いわゆる「観光学」はもちろんだが、「ホテル経営学」、「航空経営論」、「管理会計学」、「地域政策学」、「ホスピタリティ・マネジメント」といったさまざまなアプローチがなされている。さらに、シンポジウムの開催においても、「音楽」、「落語」、「地方行政」といった視点からのアプローチも試みるなど、多面的な把握に取り組み、いわば「観光のフロンティア」の領域を探求している。
研究分野：人文・社会科学・経営学（現在のところ、学術団体登録なし）
会員数：129名
ホームページ：http://www.tour-ism.net/

（事務局　辰巳厚子）